

解説

資格取得は 知識、技術向上のきっかけに

おおいし まさき
大石 真樹

地建興業(株)
工事部課長
(推進工事技士・基礎施工士
・1級土木施工管理技士)

1 はじめに

建設業に関わる方々に必要となるのが「資格」です。とにかく何か作業（設計、施工、管理）を行うには、各種資格が必要となります。

資格の種類は工種や用途により様々ですが、資格取得には大きく分けてふたつの意味合いがあると思います。ひとつは専門知識を修得し、施工や作業を効率よく最適な方法で行うことができること。もうひとつは、安全管理です。無資格者が設計や現場管理、作業を行った場合に施工不良や事故に繋がり、会社や責任者が罰せられることもあります。

そのような様々な資格のひとつが推進工事技士です。一般的にはメジャーな資格ではありませんが、推進工事に携わる我々には必要不可欠な資格で目に見えない地中の工事において高度な知識を有している技術者の証となります。

2 資格取得のきっかけ

資格取得のきっかけですが、正直に言えば会社から資格をとるように言われたからです。おそらく大半の方がそうではないでしょうか。会社によっては取得費用が会社負担であったり、毎月手当が出たりする場合があります。当社もまさにこれです。ですから鉛につられて取得

したと言われてもそのとおりとしか言いようがありません。

ですが、推進の現場で施工管理を行うのに、資格がなければ関係者から信頼されにくいということがあります。これは長年経験してわかったことで、取得した当時には想像もできませんでした。

3 資格取得の前と後

(1) 現場での施工管理

資格を取得した頃は、現場で施工管理をしていました。よって、設計された工法を設計通り確実に施工することに注視していました。推進業者の中では、特定の工法のみ施工する会社も多く、他工法の知識がない方も多いかと思います。当時の私はアンクルモール工法とホリゾングー工法のための現場管理を行っていたため、他工法や当時施工数が増え始めたケーシング立坑の知識はありませんでした。また、発注者からの設計に関する質問にも明確に答えることができないこともありました。

資格取得後現場経験が増えるにしたがい、なぜこの推進工法が採用されているのかという疑問が湧き上がりました。資格を取得していたことにより、自分では携わったことのない工法なども知識としてあったからです。

また、発注者からの質問にも答えられるようになりました。資格取得により、設計側の考えや内容がわかるようになったためです。